
貴方に花束を1 《孤高の黒狼》

日葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貴方に花束を1 《孤高の黒狼》

【Nコード】

N4070Y

【作者名】

日葵

【あらすじ】

昔からなんか変だな、と思ってたらトリップしました。

はい。神様に「世界を救え！！」でもなく、

どっかの王様に「魔王を倒せ！！」でもなく、

天使に「逆ハーだよ」「…つでもなく！！

そっとう能力つばいす。取り敢えず、帰ってくると(うざったい)

美少女に見られ、トリップ旅行に行きます、が性質が悪い事にこの

アマはゆく先々で男どもを虜にする虜にする。

と思いきや、え？あんたの能力？

へー。でも、その能力で私を巻き込んでくれるな！
しかも、お陰で嫌われ小説みたいになっているじゃないか！！
は？これが本性？
ふざけるな！！

最後はハッピーエンド予定

ミツマタへ意外なこと

昔から、なんかチラチラと視界の端に映ってた。
誰かに言うのも面倒だったからほっといたけど、

「これは、ないわ。」

トリップしました。

はい。

いきなりはないですよね。では、説明しましょう。

〈回想〉

「ちよつと、いつまで入ってるの!?!」

ドンツドンツ

「まあ、待ち給え。お姉ちゃんは漸く腹の中のモノを便所に出せたんだ。」

ふう〜。ああ、やっとスッキリした。

私は腹がスッキリしたので妹へトイレを明け渡すべく手を洗うことにした。

ただし、トイレ菌を舐めてはいけない。

よく、手を洗「早く、してよ!?!」「います。」

そして、オープン・ザ・ドア！！
と思いきや、視界の端の鏡が光ってる。
可笑しいなと思い、振り返る。

どうやら、光ってたのは鏡の面が水のように波を打っていたからの
ようだ。

不思議な物は好きだが慎重な私。

因みに私のお父さんは、石橋をハンマーで打って渡る。

さらに、おじいちゃんは石橋をハンマーで打っても破壊光線しても
何しても渡らない。絶対。

話がそれた。

要は、私の慎重さは遺伝子レベルと言いたいのだ。

そして、私はトイレの紙を何重かにして触れてみた。トイレットペ
ーパーの芯は無い。エコの家だからだ。ケチではない。

まあ、取り敢えず紙で触るとそこに普通の鏡があるような感じがし
た。

多分、目の錯覚だろうが面白そうなので直で触ってみた。

吸い込まれた。スイツと。

そして、冒頭。

どうやら、私の慎重遺伝子は、石橋を二回叩いてローラースケート
で渡って、まさかの滑りで落ちるタイプだろう。

まとめると、トイレして変化した鏡を触るとトリップした、だ。

柊へ用心深さ

冒頭に戻った所で周りの説明をしよう。

周りは草原でした。

以上。

いや、本当に草以外何も無い。

動物も。

森も。

木も。

状況を振り返る。

自分の服装を省みる。

制服だ。

高校生で帰った後にトイレダッシュだったからだ。

あ、妹。

大丈夫かな、間に合っただろうか。

だが、人の心配より自分の心配した方がいいっぽい。

周りに危険な動物がいないか確認しながら制服のポケットを探る。

見つけたのは、鏡。20円。ティッシュ。飴。ミン イア×2。

ティッシュ以下はいいが20円とは、何を買ったつもりだ。何を。

何も役に立たないのでポケットにしまう。

そして、耳をすます。

小学校の時に呼んだ教科書に書いてあった。

アフリカの女の子が迷子になって、出会った母無しの子象に群れを探してあげる。この出来事で命の大切さに気付き大人への一步を歩む感動的な物語だ。

耳をすますが水どころか動物の気配もない。

そのうち、雨が降ってきた。

じっとしていても仕方がないので歩く事にした。

歩いていくうちにどんどん雨が酷くなる。

すっかり、びしょ濡れになってしまった。

ふと、前方にでか過ぎる見た目落の葉があった。

雨宿りする場所を見付けたので、急いで葉の下へ走った。

泥が滑るが気にしない。

早く、鬱陶しい雨から逃れたかった。

やっとの思いで葉の下へ行くと、なんと先客がいた。人ではなかったが。

30センチぐらいの蜥蜴が8匹ぐらい寄り添っていた。

少し小さめのが私を見て威嚇したいのか口を開けた。あ、可愛いかもと思ったのが大間違い。

口を開けて10秒すると火を吐いた。

ええ、びつくりしましたとも。

流石に此処は異世界だと確信してしまいました。此処は辞めといたほうがいいかと思ったが火と言ってもマッチほどだから危険は無いと思った。

外は雨だし。

雨宿りを確保した所で休憩する事にしました。

飴はまだ置いといてミティアのブルーベリーヨーグルト味を食べていると火蜥蜴（勝手に命名）が此方をみています。

が、あげない。

決して、意地悪じゃないよ。

野生の動物にむやみに人間の食べ物あげちゃ駄目だよ。

例えば、犬にチョコレートとかネギをあげると大変な事が起きるからね。

あげたいけど我慢だよ。

たとえ、火蜥蜴全員が一行に並んで目を輝かせてヨダレがタラーリでもね。

そついう事で火蜥蜴を見ないふりで鏡を取り出す。

私は街中歩いても誰一人振り返りも印象にも残らない容姿だ。でも、髪だけは大事にしている。

昔はピンで留めてもサーツと落ちるぐらいサラサラヘアだった。昔は。

今は、訳ありで少し荒んだがあ頃の髪を蘇らすべく細心の注意をしている。

櫛はマイナスイオン付きだ。

櫛は無いのでせめて手櫛をと折り畳みの鏡を開くと、あら不思議。

此処へ来る原因となった、水の面の鏡になっている。多分、触れたらまた吸い込まれるだろう。

だが、今のままで帰れない事は確かだ。

一か八か、吸い込まれるのが妥当だろう。

野バラへ才能

水の面になった鏡に触れると、やっぱり吸い込まれた。さつき、吸い込まれた時は気が動転していたが今は割と落ち着いている。

吸い込まれる感覚はやはり水に沈む感覚だ。ヒヤリとしていて気持ちがいい。

鏡の中の空間はエレベーターぐらいの広さだ。立った状態で沈んでいくと足が空間から出る感覚がした。出る所に気を付けなくては攻撃されたら危ない。しかし、今の所は方法が不明なので放っておく。自分の身の事だけだ。

顔が空間から出ると自分の家のトイレだった。最後に手が出て周りを見渡すと自分がトリップした場所だった。

「お姉ちゃん!!!いい加減にしる!!!」

ドンッ ドカツ

おや?

まだ、妹が外にいるようだ。しかも、戸を蹴る妹の台詞を聞くかぎりどうやら、そんなに時間は経っていないらしい。

取り敢えず、トイレを譲る。

ドアを開けると怒って焦った妹がいた。

実を言うと、トリップしたので何か特別な力があるかと思っていたがそうではないらしい。
残念。

ひとまず、部屋に行き寝る。疲れたのだ。
異世界でまさかのランニングはキツかった。
運動部は中学生の時しかやっていないし今は、家庭部だ。
しかも、受験中で運動とは無縁な生活を送ってきた。異世界での運動で私の体力は大幅に削られてた。

時計を見ると、まだ4時だった。
学校は近くのを選んだから帰るのがとても早い。

汚ないのでベッドに入らないがもたれかける姿勢で夢の中に入った。

9

特に不思議な夢は見なかったが空き家にいた夢を見た。
夢占いで占って見れば『人間関係に悩んだり、今後、悩みます。
人運下降気味に…』。
不吉だ。

■■■■■■■■

次の日。

半分、また不思議な出来事が起きるかワクワクで、また半分は恐る

恐る同じトイレに入った。

結果、何も無し。

せつかく、リュックも背負ってたのに残念だ。
時間になったのですぐに学校に行った。

昼休み、誘われたら友達とつるむ私は一人でトイレに行った。

手を洗った時、ポケットのハンカチをとるのに水気をとろうとし、
ぱっぱっと手を振った。

すると、トイレの鏡の面が先日のように水のように水滴を受け止め
波紋が広がる。

あ、昨日バージョン。

とっても、ご都合主義だけど自分の能力？
だが、何者かが与えてくれただけかも。

既に私はこの不思議な状況を受け止めていた。

昔から、なんか変だ変だと思っていた。

何が変わって、見えないのに『何か』の気配がしたような気がした
り、見えたような気がした。

決して、それが本当じゃなく只の勘違いかもしれない。

何が言いたいかと言うと私は結果、『不思議大好き』『ファンタジ
ー万歳』な中2病女子高生になったということだ。

胸を張って言えないが。

私はこの時、『素敵な才能』あるいは、『私の人生を愉しませてくれる能力』だと感じていた。

しかし、この予感は大きく外れる。
が、この時の私には知る由もなかった。

フロックスへ貴方の望みを受けます

- 1．私にはトリップ能力がある。
- 2．異世界と元・世界の時間はまちまちだが最低1週間で1日の時間差。
- 3．理解不能だが時間差等で起きた身体の変化は違う。例えば、異世界で出来た傷は戻ると消えているのに再び異世界にトリップすると傷が元・世界に戻る前と同じ状態。

以上が私のトリップの法則だ。

他にも、異世界についても分かった事がある。

私がトリップした場所は（一番デカイ）大陸コンテンツのガザール王国だ。

ガザール王国は貿易王国で人が集まる。

要は、人口1位の国。

初めてトリップした草原はグラシーと言って絶滅危機のサラマンダーが唯一生息する地域だった。

因みに例の火蜥蜴はサラマンダーだった。

見た人は幸運を呼ぶ、とも言われる程なのにろくに観察しなかった。惜しい事をしたと茫然としてしまった。

教えてくれた本屋のじいさんの前で。

グラシーから出るとプロドューと言う農産物の生産豊かなのどかな村にでる。

一見すると中世のヨーロッパだ。

こっちは純東洋人の私は西洋人には珍しいらしい。

当初は目立った。

そりゃ、近くにこんな顔立ちの人はいない。

しかも、服はジーンズとスニーカー、長袖。

トリップする時にあらかじめ着替えていたのだが、まさか王道ヨーロッパ風異世界とは思わなかった。

この世界の女子はドレスで髪は結えるほど長い髪が常識。

私も髪は長いが肩を越す程度だ。

あと、服装。

これで、少年に間違われた。

最初は訂正するか迷ったが少年の方が少女より怪しまれないので訂正なしだ。

一応、胸はあるほうなのでサラシ…ではなくキツめの腹巻きを胸にお話ほどサラシは簡単ではない。

けっこう、難しいのだ。

そういう訳で、放課後に誰も居なくなつた教室でカーテンの影でプロドュー村に毎日トリップしてる。

が、そんな楽しいトリップ旅行も終わる。

目の前の人物によって。

「佐藤さん…。誰にも言わないから連れてって？」
女が女に上目遣いすんな。

勘違いされては困るが私は基本、女子老人に優しい。だが、この女は何か私の本能が危険だ、と警報を鳴らす。

一応、表立って怪訝な表情は出さないようにしてる。

この女は鈴木薺恋。

ほわわんとした儂げな美少女。

髪は色素も薄く腰まで長い。

しかも、気が利くので正に天使。学校のアイドルだ。可愛いは正義な私は警報を鳴らす本能を無視して、まあいつか、と了承した。黙ってくれると約束もした。

そして、それから鈴木さんもトリップ仲間になった。

ムスカリへ失望

「わあっ／＼凄い！！私、異世界に来たのね！！」

鈴木蕎恋すずきしほこいはトリップした事に頬を紅色に染めて興奮している。

トリップした場所はプロドュー村だ。

私のトリップ能力は最後にトリップした場所になる。

村の人たちに私はある国の貿易商人の息子で貿易王国であるガザー王国に留学に来た。だが、もっと国を良く知りたいたので旅に出て今はこの村が気に入って拠点にしている。

因みにこの世界には冒険家の職業がある。

レベルがあるが最下位は村にあるギルドに登録すれば誰にでもなれる。

私は例の本屋のじいさんにお世話になり無事に最下位だが冒険家になった。

この世界だが人それぞれに能力（魔法と言っている）がある。

が、大抵地域に染まる。

プロドュー村は農産物豊かだから村人皆植物系だ。

だが、稀に祖先が別の地域から来た等で能力が異色になる。

村人達から見たら奇異なのでなかなか歓迎されない。

本屋のじいさんが丁度異色の能力の持ち主で、しかもレベル5。

レベルの説明すると、

レベル1：登録すれば誰にでもなれる。

レベル2：試験を受ける。レベル3：レベル2の時に人々から推薦を貰い、ギルド会員が認証。

レベル4：ギルド会員になれる。学校でいう先生。

レベル5：能力2つ。又は、ギルド主催の大会に優勝。

レベル6：レベル5を国に報告。中央、国家魔技師になる事を義務づけられる。

レベル7：2人以上の国家魔技師長又は2人以上のギルド長に推薦され、国家魔技師長又はギルド長、国際魔技師になる事を義務づけられる。

レベル8：国家魔技師総長に推薦され、国際魔技師になる事を義務づけられる。

レベル9：2人以上の国家魔技師総長に推薦され、国家魔技師総長になる事を義務づけられる。

レベル10：全国家魔技師総長又、全国家、稀にだが聖獣に認められた者だけになれる。国際魔技師総長になる事を義務づけられる。過去7人、レベル10でさえ桁違いの魔技師がいたという。その者達は《トイ》《イセラ》という。由来はその者達がそう呼ぶように言ったという。

《トイ》《イセラ》のうち3人が今も一族がいる。

ケイカ侯爵家、カノキッド公爵家、マーガレシヤスター伯爵家の3大魔貴族と呼ばれる。

長くなったが世間ではレベル4でも凄い。

レベル3で漢検準2級レベルだと思ってもらうと分かりやすいと思う。

レベル4は1級レベル。魔のプロだ。

じいさんは凄かった。

レベル5なのだ。

しかも、2つの条件を若い時に満たしたという。

いつでも、レベル6になれるが気ままに本屋さんがしたかったらしい。

今でこそ、レベル5なので村人達は重宝されたが昔は異色で大変な苦勞をしてたらしい。

村外れの本屋なのだが昔の影響で人嫌いらしい。

結果、独身だ。

凄い人なのに惜しい、と思ってしまった。

因みに、じいさんの能力は《自己》《人生本》

能力は人様々なので自分で命名する。

《自己》とは精神能力が無効。これは、例の祖先が占い系の里かららしい。

じいさんも聞いた話で詳しい事は謎だ。

《人生本》これは羨ましい。人と会い直接了承を得ると手元のノートにその人の経歴が現れる。

この能力はギルド長の《能力破り》により発見されたという。

私はこの《人生本》の能力で正体が割れてしまった。しかし、その前に本の話で意気投合してたのが幸いしたのか滞在してる間は世話をしてくれた。

いいじいさんだ。

もう一度言う。

奥さんがいないなんて《もったいない!!》

話を戻すが、要は私は今や村から受け入れられた存在な訳で鈴木さ

んを村に連れていったわけだ。

だが、鈴木さんを紹介し過ぎていくうちに違和感を感じるようになった。

初めは、男の子ということになっていくから嫉妬とか？なんて、考えていた。

だが、違ったようだ。

ある日、またいつもと同じように学校からトリップし、村を散策していると青年5人に話し掛けられた。

「サトウ。

こないだ、作ってみた腕輪が在るんだけど付けてくれない？

ショーコさんにプレゼントしたいんだけど付けてごちとかショーコさんをよく知っているサトウに聞いてみたいんだ。」

成る程と思い付けてみた。別にデザインも悪くないし大丈夫だと返したが返さなくてもいい。代わりがあるからだとか妙な事を言って立ち去って行った。

その夜、いつもの時間に帰ろうとしたが鈴木さんが見当たらない。

たまに鈴木さんが帰らない時があるから大丈夫かと思いつりッしようとしたが出来なかった。

前に言ったが私の能力は鏡に水を付ける。

そうすると、鏡の面が波を打ち能力発動となるのだが鏡が反応しない。

帰れなくなったのだ。

シヨックで胸の動悸が激しくなっているのを押さえ込む腕には黒い腕輪が気味悪く月の光を反射してた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4070y/>

貴方に花束を1 《孤高の黒狼》

2011年11月28日21時45分発行